

様式第11号 (第9条関係)

実績報告書

18年4月13日

市川市長

団体名 グリーンエッジ
代表者名 幸村 香代子
所在地 市川市 南八幡 5-11-3-614
電話 047 (376) 8082

17年6月2日付け 市川第 ²⁰⁰⁵⁰⁶¹⁶ -0041号をもって交付決定のあった市川市市民活動団体支援金に係る実績報告について、市川市納税者が選択する市民活動団体への支援に関する条例第15条第1項の規定により、提出します。

記

1. 事業費総額 356,758 円
2. 交付決定額 178,000 円
3. 添付書類
 - (1) 支援決定事業収支決算書 (様式第12号)
 - (2) その他市長が必要と認める書類



様式第12号（第9条関係）

支 援 決 定 事 業 収 支 決 算 書

事業の名称：困難を持つ子どもたちへの支援—居場所作りと仲間作りを目指して—

1. 【収 入】

（単位：円）

項 目	金 額	説 明（積算等）
会費収入	157,400	正会員26名×3,000円（半期）他
バザー収入	21,358	活動費確保のため不用品バザー開催
支援金	178,000	市川市民活動団体支援金
合 計	356,758	

2. 【支 出】

（単位：円）

項 目	金 額	説 明（積算等）
インストラクター派遣料	48,500	日本エアロビクス協会より専門指導員派遣
学生ボランティア交通費	37,880	子ども達の活動補助・安全確保のため
感覚統合遊び費	126,177	バランスボール・ポンプ・インディアカ・収納袋他購入
フラワーアレンジメント費	35,020	花代、花器、オアシス、講師謝礼他
子育ておしゃべりイベント費	19,381	飲み物、茶菓子、お知らせ印刷代、会場費
手作りイベント費	14,486	材料及び用具代
演奏会費	58,127	江戸川区マーチさん、BBモフラン出演料、車代、花贈呈他
修了証・記念品費	17,187	子ども達のやる気と楽しみを育てるため、手作りカード、賞状製作
合 計	356,758	

※ 領収書を添付してください。

【事業報告書】

事業の名称	困難を持つ子どもたちの支援—居場所作りと仲間作りを目指して—
実施時期 実施場所等	平成17年4月～平成18年3月 市川市立大和田小学校体育館
事業内容 (目的・経過)	<p>様々な困難を持つ子ども（LD、ADHD、不登校、発達遅滞等）が地域で育ち合う場を作ることがグリーンエッグの目的である。</p> <p>今回は、1%支援金を利用して子どもたちの遊具を購入した。特に、発達障害を持つ子どもたちは運動が苦手な子どもが多い。バランスを取る、走る、ジャンプするなどが苦手な子どもたちである。そこで、感覚統合に効果のあがるバランスボールを購入した。33個のバランスボール（足りない分は日本エアロビクス協会よりレンタルで補充）を購入、膨らますためにポンプを5台、さらにインディアカを購入し、楽しみながら身体を動かすことを目指した。</p> <p>バランスボールによって、身体を動かす事が苦手な子どもも無理なく全身を動かすことができた。専門のインストラクターが子どもたちの傾向を把握し、活動を工夫してくれたことが更に効果をあげたと言える。毎回43個のボールを膨らませる作業は、学生ボランティアが協力してくれた。多くの学生ボランティアや地域の社会人ボランティアが今年度もグリーンエッグの活動を支えてくれた。</p> <p>グリーンエッグでは、今年度14回の「キッズエアロクラブ」を開講した。さらに、体験イベントとして「親子フラワーアレンジ体験」「クリスマスケーキ作り体験」「マーチさんいらっしゃい！モフランと遊ぼう！音楽イベント」を実施した。それぞれの体験イベントは発達障害を持つ子どもたちと親御さんが共に活動することで、仲間作りができ、心に残る経験作りができたと考える。特に、3月に実施した音楽イベントは、江戸川区の障害児音楽サークル「マーチ」さんをお招きし、マーチさんの音楽発表に耳を傾け、市川市の子どもたちと江戸川区の子どもたちが「友達」になる時間が作れた。さらに、プロのパーカッショニストBBモフランさんをお招きし、全員の子供たちが実際にアフリカの太鼓に触れ、アフリカンダンスを楽しんだ。</p> <p>グリーンエッグでは、様々な活動の場を提供している。しかし、それは毎回ボランティアで協力してくれる人々の手作りの会である。子どもたちの実態を理解し、子どもたちが「ここが居場所」と思える場所を作ろうと工夫し、案を出し合う。手作りの修了証、手作りのクリスマスプレゼント</p>

	<p>は、子どもたちへのささやかな「ごほうび」となって、「また、来よう。」というやる気と楽しさを与える。</p> <p>そして、この子どもたちの居場所は、障害を受容することに苦しむ親にとっても悩みを分かち合い、育児を支えあう場となっている。小学校への就学、中学への進学の際も、発達障害を持つ子どもたちが進む道について親たちは悩み語り合った。学期末に開催される「おしゃべり会」は育児に悩む親たちにピアカウンセリングの機能を持って、育児を支える効果を発揮している。</p>
<p>事業結果 (成果・課題)</p>	<p>1%支援金によって、活動の幅が広がり運動の苦手な子どもたちが運動を楽しむ時間を創りあげることができた。</p> <p>支援金で購入できたバランスボールには、無理なく全身を鍛える効果があった。それにより、飽きることなく十分に身体を動かし汗を流す楽しさを味わうことができた。専門のインストラクターは毎回、子どもたちに合わせた活動内容を工夫している。</p> <p>そしてまた、親にとっても様々な効果をあげている。運動を通して、親子でのスキンシップは情緒的な安定を子どもにも親にももたらす。さらに、一緒に体験する楽しいイベントにより、育児不安を持つ親に子どもを丸ごと受容する効果を与える。学校では「ダメダメ」と言われる子どもたちは、ここでは自ら進んで活動をする。フラワーアレンジなどでは、慎重にはさみを使い、花をいける子どもの様子に驚く親も少なくない。</p> <p>今後、グリーンエッグは活動の場を野外にも用意したいと考えている。体育館での活動が主であったが、野外で家族単位で参加できるイベントを企画し、市川市で共に子どもを育てあう仲間として交流を深めたい。発達障害には様々なタイプがあり、様々な環境で教育や療育を受けている。情報交換の場としても多くの家族が集まることは新しい力となって、子どもを育てあう力になるのではないだろうか、期待する。</p> <p>グリーンエッグの活動には、学生ボランティアの協力が欠かせない。それは友達が出来にくい子どもたちにとって、年齢の近い「おねえさん」「おにいさん」の存在は「友達作り」の練習になるからである。幸い、今は教師や保育士、理学療法士、作業療法士などを目指す学生が関わってくれている。ボランティア活動を子ども達と楽しみながら自分の糧としてほしいと願う。グリーンエッグの活動は困難を抱える子どもたちの支援を目指して始まった。しかし、それは子どもだけでなく、夢を持つ学生の支援にもなっている。休みをボランティアのために使ってくれる学生には交通費だけは保証してあげたい。支援金を得ることは様々な人を支えることにつながる。</p>